

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.7.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比*1 (2018.7.26)	変動*2 理由	エリア 占有率	保管量*3／保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800	m ³ 0	m ³ —	85 %	178100 / 250700 (71%)	・フランジタンク解体片 2018年7月末時点でコンテナ771基保管。 エリアP1 コンテナ数：639基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：132基 (2018年3月15日～)
		C	屋外集積	0.01未満	61,700	m ³ +2,200	m ³ ①②	98 %		
		F 2	屋外集積	0.01未満	6,400	m ³ 0	m ³ —	85 %		
		J	屋外集積	0.01	4,300	m ³ 0	m ³ —	53 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,500	m ³ 0	m ³ —	45 %		
		O	屋外集積	0.01未満	43,500	m ³ +700	m ³ ①③	85 %		
		P 1	屋外集積	0.01	48,300	m ³ -800	m ³ ④	75 %		
		U	屋外集積	0.01未満	700	m ³ 0	m ³ —	100 %		
		V	屋外集積	0.01	1,600	m ³ 0	m ³ —	27 %		
	AA	屋外集積	0.01未満	4,400	m ³ +100	m ³ ①	12 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600	m ³ 0	m ³ —	58 %	38100 / 71000 (54%)	・エリアWでの車両解体（プレス等）完了。(2018年1月)
		E 1	シート養生	0.03	14,000	m ³ +300	m ³ ⑤	87 %		
		P 2	シート養生	0.01	5,500	m ³ 0	m ³ —	61 %		
		W	シート養生	0.04	8,000	m ³ +100	m ³ ①	27 %		
		X	シート養生	0.01	7,900	m ³ 0	m ³ —	65 %		
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	15,700	m ³ +900	m ³ ⑥	98 %	19200 / 31700 (60%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量（4,000m3）増加。 (2018年5月)
		A	仮設保管設備	0.15	1,000	m ³ -1,500	m ³ ⑦	15 %		
		E 2	容器*4	0.02	300	m ³ 0	m ³ —	19 %		
		F 1	容器	0.01未満	600	m ³ 0	m ³ —	99 %		
		Q	容器	0.04	1,400	m ³ -600	m ³ ⑧	24 %		
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器*4	0.01	9,800	m ³ +600	m ³ ⑨	21%	9800 / 45600 (21%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量（33,600m3）増加。 (2018年2月)
合計（ガレキ）				245,000	m ³ +2,000	m ³ —	61 %			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,200	m ³ 微増	m ³ —	63 %	96600 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700	m ³ 0	m ³ —	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600	m ³ 0	m ³ —	88 %		
		V	屋外集積	0.01	100	m ³ 微増	m ³ —	2 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200	m ³ 0	m ³ —	88 %	37300 / 41600 (90%)	
		T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	m ³ 0	m ³ —	94 %		
合計（伐採木）				133,900	m ³ 0	m ³ —	76 %			
保護衣	屋外集積	容器	0.04	55,400	m ³ +1,400	m ³ ⑩	78 %	55400 / 71200 (78%)	・使用済保護衣等焼却量 4360t (2018年7月末累積) ・焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 965本 (2018年7月末累積)	
合計（使用済保護衣等）				55,400	m ³ +1,400	m ³ —	78 %			

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

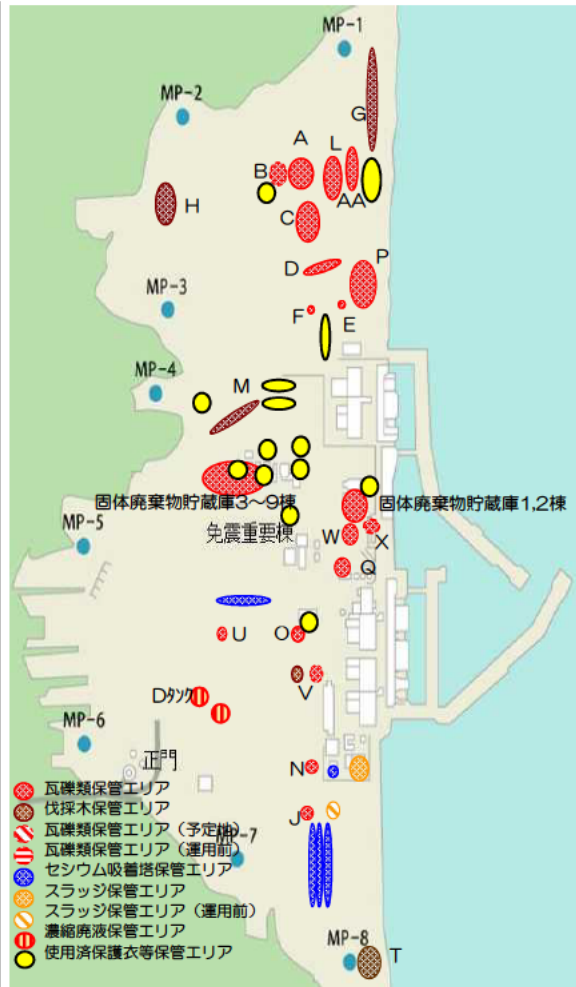
※2 主な変動理由：①タンク関連工事 ②一時保管エリアP1から瓦礫の移動 ③構内瓦礫保管 ④瓦礫を一時保管エリアCに移動 ⑤一時保管エリアCから瓦礫の移動
⑥瓦礫保管テントAからの移動 ⑦覆土式一時保管槽(第4槽)への移動 ⑧瓦礫を固体庫に移動 ⑨一時保管エリアQからの移動 ⑩使用済み保護衣等の受入

※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

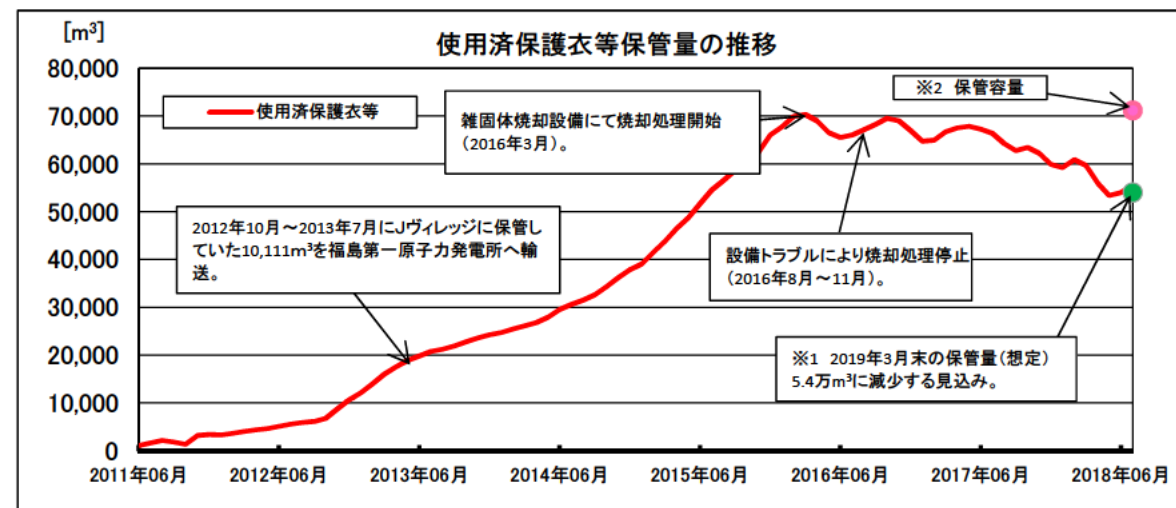
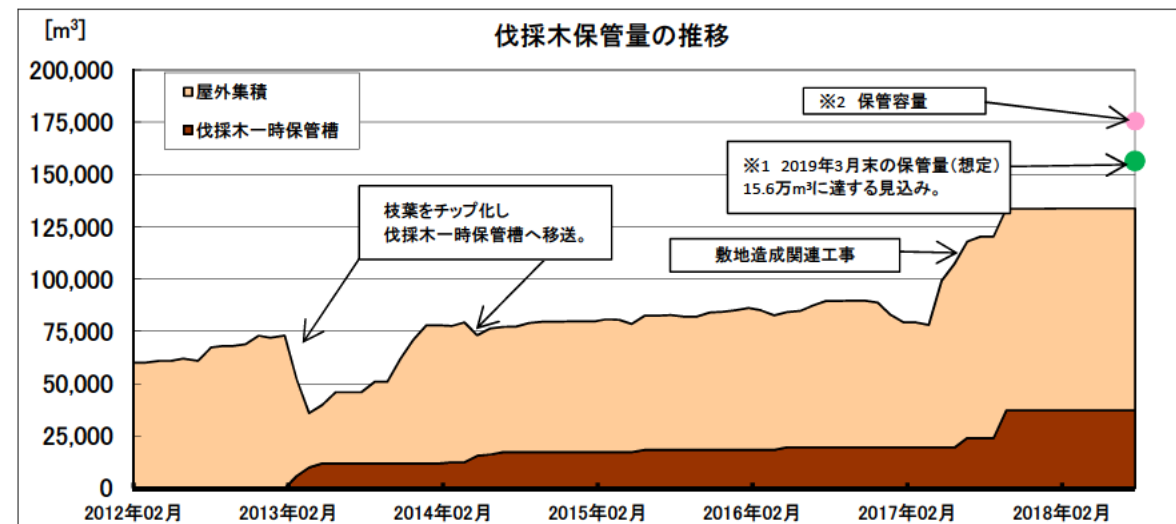
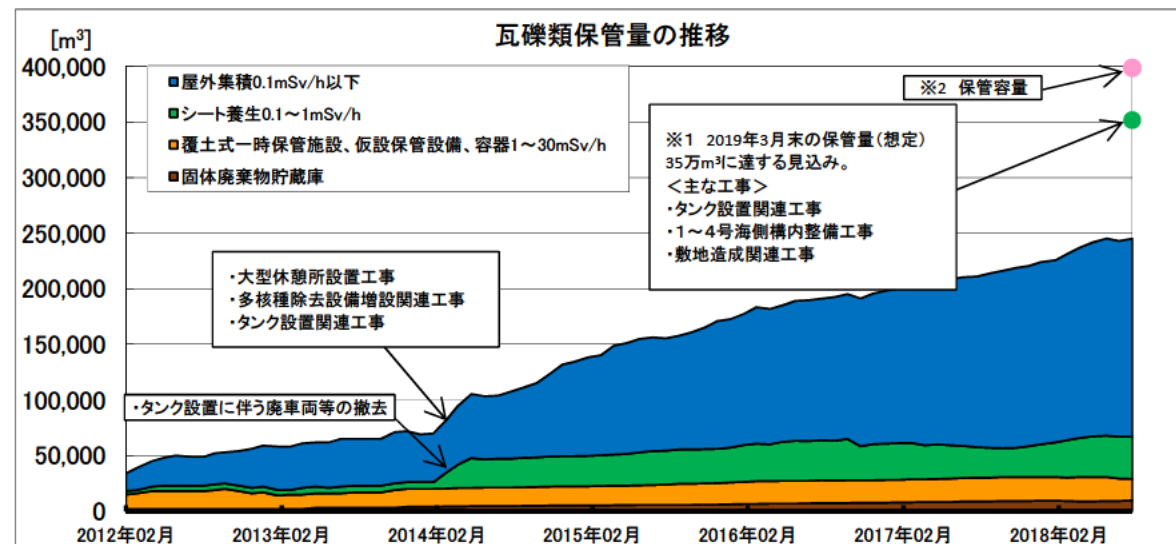
※4 水処理二次廃棄物（小型フィルタ等）を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.8.2時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2018.7.26)	保管量／保管容量 (割合)	トピックス
水処理二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	767 本	0 本	4057 / 6368 (64%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可（2015年12月14日） ・使用前検査完了（2017年5月26日）に伴う保管容量増（第四施設架台129塔分）
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	204 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	既設 1,497 基	+10 基		
			増設 1,303 基	+16 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	74 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	既設 11 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	201 本	0 本		
	廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,399 m ³	+12 m ³	9399 / 10700 (88%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。（現場パトロール異常なし） ・水位計0%以上の保管量：9299 [m] タンク底部～水位計の保管量(DS)：約100[m]



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.7.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年3月26日認可)の予測値を示す。
※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.8.2時点)

